

## ② 12年前の約束は、努力義務ではなく禁止だった!

- 現知事は、12年前「多選首長は、県政の腐敗と停滞を招く」との公約で、県民に信任を得て当選しました。
- そして自ら「埼玉県知事の在任期間にに関する条例」を議会に出し、県のルール（条例）としました。
- 現知事は、平成16年6月の定例議会一般質問でこう答弁しています。「私は、衆議院時代のときも、各会派、党派の方々と打ち合わせをしながら、実は、知事と政令指定都市の首長の四選禁止法案を国会に提案する寸前まで詰めたことがありました。」「憲法上、あるいは法律上、制限もありますので、私は「自肃条例」という形で提案させていただいておりますが、単にマニュフェストで約束をしたということではなく、私自身の「筋金入り」の提案でもあります」
- 自分の魂はどこに置いてきたのでしょうか？



平成27年度執行  
埼玉県知事選挙用 法定ビラ 2号 このビラは公職選挙法に基づき、選挙期間中でも自由に配布することができます。

- 会見の席で、「各党各会派

- 平成23年6月28日の自

- 知事は翌日の定例記者会見の席で、「各党各会派

- 平成23年6月28日の自

- 県連支持のお願いに対する

- 「前回の知事選の時、知事側が自民党に、今度こそ最後だから県政安定のために支持が欲しいと、依頼してきた。県議団は何度も本当に最後なのかを確認した」との記者会見

- 「しかし「いつどこで誰と」という証拠は自民党埼玉県連に残っています。

- 「この様子は、翌日の各社新聞が「当日の役員会にも知事が直接、支持要請に訪れた」と報道しています。

## ③ 4年前の言葉はウソ、それとも忘れた？

● 新藤自民県連会長の、に自分の方から推薦依頼

民党県連役員会では、知

「前回の知事選の時、知事などをしたことはない。

事から提出された「支持

などをしてきた。どちら、どなたといつどこでという話を

のね願い」の文章が協議されました。（資料参照）

あるんだつたら、どなたといつどこでという話を

失礼な話だと思つてゐる」と不快感をあらわにした。

● その様子は、翌日の各

社新聞が「当日の役員会にも知事が直接、支持要請に訪れた」と報道して

# お伝えします 真実を！

## 現埼玉県知事の虚偽の数々

- 県の条例とほ、国の法律と同じくその地域のルールです。県のトップにいながら、自らが県議会に出した「多選自粛（禁止）条例」を、自らが破るというのは、憲政史上、前代未聞の暴挙です。
- 条例を提案した首長は、規定通りに任期を終えるか、条例を廃止・改正してから再出馬するのが筋道です。
- 現知事はこの暴挙をた。しかしこれは、「埼玉の不名誉」であり、「埼玉の不祥事」であり、「憲政史上初の汚点」です。
- 条例を廃止も改正もせずに、立候補を表明した例はありません。
- 現知事はこの暴挙を憲政もバカにした暴挙です。これは、県民も、県議会も、憲政もバカにした暴挙です。
- 現知事はこの暴挙を「私の不名誉」と言いました。

## 1 これは憲政史上初の暴挙！

「私は自分から推薦依頼などしたことはない。どなたといつどこでしたかを、教えて欲しい。大変失礼な話だ」と嘘ぶいた知事。  
証拠をお見せします。

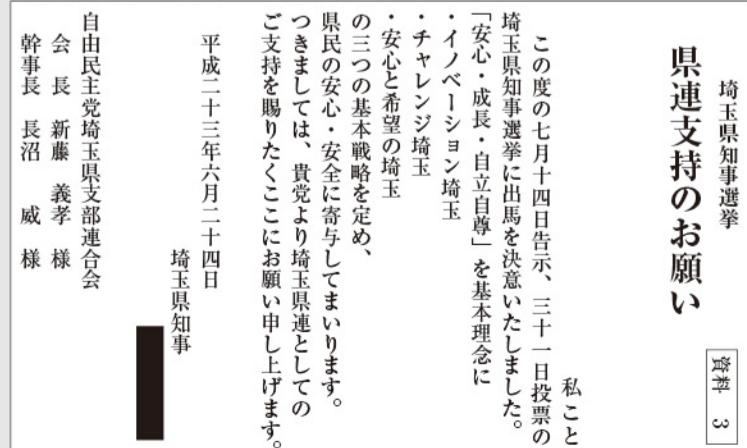
▼平成23年6月29日 埼玉新聞  
知事が自民党県連を直接訪れ、「支持を要請」。



▼平成27年4月15日 読売新聞  
知事は支援依頼などしていないと発言。



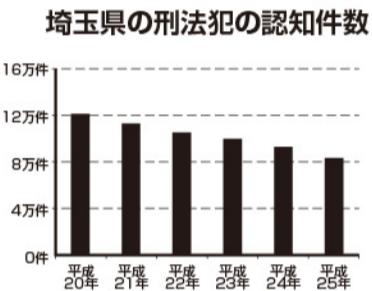
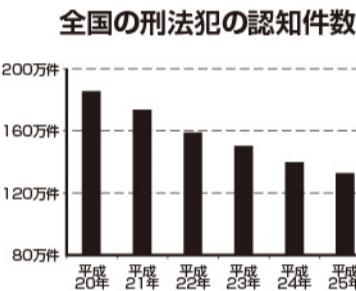
▼平成23年6月24日  
これが知事が自民党に提出した「支持のお願い」の文書です。  
県連役員会で資料として提出されました。



埼玉県知事選挙  
県連支持のお願い

## 5 良いところだけを話す知事の県民だまし。

- 現知事は、「刑法犯の認知件数が劇的に減少し、治安が改善した」とよく話しますが。これも「良いとこ取りのテクニック」です。
- 下表にあるように埼玉県は減りましたが、全国の減少と同じです。埼玉県だけが特別に減ったではありません。
- また埼玉県の警察官一人あたり「刑法犯の認知



## 4 2年前から徐々に始まった権力執着の言葉の数々。

- 3期目の折り返しを迎えた平成25年8月には、自身の4選出馬について、「あくまで自粛を旨とし、出馬は、法（条例）に縛られない」とブレはじめ、「できないわけではない」と公言。平成26年2月には、「やらなければいけない時は手を挙げてでもやる」と自らの4選目を肯定する言葉を使いはじめ、今年5月の記者会見では、「私の多選による実害を聞いたことがない」と開き直りました。これらは全て新聞発表されている知事の言葉です。
- 「条例は努力義務だ」というのも詭弁です。4選禁止とせず多選自粛としたのは、憲法や法律上の制限を考慮し、形式を整えたためであり、「破っていいよ」という意味ではありません。現知事は12年前の「4選禁止は私自身の筋金入りの提案」と言ったあの清新な気持ちをどこに置き忘れたのか。こういう品格の政治家を私たちちは知りません。

## 今の県政の結果は悲惨。埼玉県は危機なのです。

### ▼人口が第5位なのに、経済はダメ。

- 実質経済成長率 全国第15位
- 一人あたりの県民所得 全国第19位
- 一人あたりの労働生産性 全国第30位
- 有効求人倍率 全国第46位（ワースト2位）  
⇒国と連携できないことも経済低迷の要因です。

### ▼人口第5位なのに、安全はワースト1位。

- 警察官の数 全国第47位（ワースト1位）
- 警察官一人あたりの業務負担  
県民636人に警察官1人 ワースト1位
- 刑法犯認知件数、重要犯罪認知件数 ワースト2位
- 110番有効受理件数 ワースト4位  
⇒警察官数は国が関与。国と連携できていません。

### ▼医療も、教育も、出産も…、埼玉県は危機。

- 医師数 全国第47位（ワースト1位）人口10万人当り
- 教師一人あたりの児童数  
小学校18.98人 全国第46位（ワースト2位）
- 中学校15.92人 全国第44位（ワースト4位）
- 出生率1.31（合計特殊出生率） 全国第40位  
⇒医師数も教員数も国が。今の埼玉じゃジリ貧。

- 4月の県議選で、自民は過半数（47議席）を維持したが、現知事が主導した「プロジェクトせんたく」は9議席。自民に渡り合える数字ではない。しかも知事は選挙期間中、徹底的に自民を落とすために活動をしていました。これでは「これまで自民にも知事に同調する県議もいたが、彼らにも覚悟ができた。」
- さらに、現知事は、県民から最多の支持を得ている自民党県議団と対話すら出来ない状態です。
- さらに、国との連携がなく、政権与党との繋がりは全くありません。

- その結果が、医師数も、警察官数も、全国ワースト1位という数字になっています。
- さらに埼玉県は「埼玉県版企業誘致」などと「埼玉県版」と付くものが多いのですが、あれは国と連携していない、国の予算が引き出せていないから「埼玉県版」なのです。
- 結果として、経済が弱く、労働生産停滞を招いているのです。
- 全国5位の人口という人財があり、首都圏という好立地も活かせていない。現知事は、国との連携がなく、県議団との対話もない、まさに四面楚歌の状態です。

## 6 これからは四面楚歌の危うい立場の人。